広報 はちまんたい
hachimantai
Dec.2011 No.140

CONTENTS

●目次

02 Zoom Up 人　工藤 升子さん
03 Front Topics　叙勲・褒章
八幡平市から３人が受章
04 PICK UP　夢に向かって
秋谷陸さん・伊藤なのはさん
08 震災発生から９カ月
復興支える市民のチカラ
09 HACHIMANTAI NEWS
放射線量測定結果 ほか
10 各課からのHOT LINE
除雪作業に理解と協力を
11 Sports　各種スポーツ大会成績、
八幡平市でスキーインカレ開催決定
12 話題ピックアップ
民国連携森林共同施業団地協定書調印式／男女共同参画フォーラム／老人クラブ芸能発表会 ほか
14 福祉ネットワーク
保健のひろば　環境のみらい
介護のココロ
15 まちの企業探検隊㉓
㈱M・D・エンジニアリング
われらスポーツ少年団No.18
寺田野球スポーツ少年団
16 博物館だより　図書館だより
17 よろこび　おくやみ
人口の動き　交通事故件数など
広報クイズ
18 INFORMATION　お知らせ
20 八幡平いにしえの宝
五の平の大イチョウ

今月の表紙

市老人クラブ芸能発表会は11月18日、西根地区市民センターで開かれました。市内各老人クラブの会員は、日頃稽古を重ねた歌や踊りなどを披露しました。【写真＝「隅田川」ならぬ「五百森川」を披露する五百森老人クラブの伊藤洋子さん(左)と工藤典子さん。関連記事13ページ】

Zoom Up 人

自分史「糸の会」会長

工藤 升子さん

くどう・ますこ　81歳　上町

◎profile
昭和５年岩手町生まれ。23歳に結婚後、旧西根町へ。平成４年に自分史「糸の会」を発足し、会長を務める。現在、会員12人。夫、長男夫妻、孫２人の６人暮らし。血液型Ｂ型のみずがめ座。

時代とともに生きてきた「証」つづり続けて20年

20年は本当にあっという間だった。積み重ねた自分史を見て、今まで続けてこられたことがうれしい―。

10月27日から11月9日まで、図書館で作品展を開いた。20回目となることしも、会員それぞれの歩んできた歴史をつづった文章が展示されたほか、新しく1冊にまとまった4人の本が並んだ。

糸の会は、旧西根町で開かれた自分史講座に参加して、興味を持った受講者が集まったのをきっかけに平成4年発足。会員は月1回、糸の会オリジナルの用紙に書いた原稿を持ち寄り発表し、お互い感想を述べ合う。原稿は、工藤さんがワープロ編集し、1年分を短編集にする。会員一人一人「元気なうちに1冊を」が目標で、ことし発行された4冊を含め、これまで11冊の自分史が生まれた。

工藤さんは自分や家族、時代について書く自分史を「時代のトンネルをくぐり抜けながらできた心のひだ、愛おしみながら今を生きる。若い世代に伝えたいもの。書いた後の達成感はひとしお」と語る。

「日本語を大切にしながら書く〝自分史文学〟をこれからも生涯続けたい。アンチエイジング（老化の予防）につながりますから」と笑顔で話しながら「あとは、私と夫の2冊の自分史を発行すること」と夢を語る工藤さん。今日も自らの思いを文章に込める。

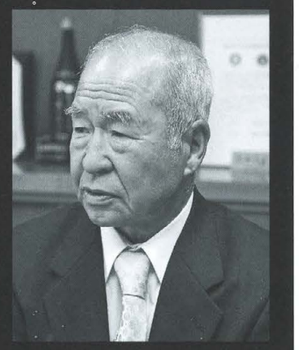
自分史「糸の会」のメンバー

Front Topics

叙勲・褒章　八幡平市から３人が受章

一心に進んだ道に光

政府は11月３日付で23年秋の叙勲、第17回危険業務従事者叙勲、23年秋の褒章を発令しました。八幡平市からは、秋の叙勲（消防功労）で元市消防団長の渡辺東六さん(72)＝駅前二区＝、危険業務従事者叙勲（防衛功労）で元３等陸尉の澤口進さん(61)＝下平笠＝、秋の褒章（業務精励）で農業の立花徳彦さん（64）＝細野＝の３人が受章しました。



23年秋の叙勲
瑞宝双光章

渡辺東六さん

わたなべ・とうろく
【消防功労】元市消防団長
72歳　駅前二区

渡辺さんは昭和38年に旧西根町消防団に入団。平成14年から旧西根町消防団長、合併後は初代八幡平市消防団長を務め、21年に退団するまでの約46年間、災害現場での活動や団員の育成など、地域消防事業の発展に尽力しました。

「合併後に旧3町村の消防団を一つにできたのが印象に残っている。長い間続けることができたのは、家族や地域、団員の皆さんのおかげ」と振り返ります。

「大きな災害が起きないために、これからもできることをしていきたい」と語る渡辺さんは「地域を守るのは、そこに住む地域の人たち。若い人たちには消防団に入ってもらいたい」と願いました。

第17回危険業務従事者叙勲
瑞宝単光章

澤口　進さん

さわぐち・すすむ
【防衛功労】元3等陸尉
61歳　下平笠

澤口さんは昭和43年に陸上自衛隊に入隊。平成16年に3等陸尉として退官するまでの36年間、ミサイルやレーダーなどの通信施設を専門に、国内外で国の防衛業務に尽力しました。一番の思い出は、昭和54年に約5カ月間の米国出張勤務。アメリカ陸軍の隊員との交流の中で、英語の重要性を実感しました。「現在はより必要性がある」と語ります。

退官後は、農業委員や西根地区地域審議会委員などを務めた澤口さんは「国のためにやってきたことが認められた。これからも自衛隊と地域をつなぐパイプ役として社会に貢献したい」と決意を新たにしました。

23年秋の褒章
黄綬褒章

立花徳彦さん

たちばな・のりひこ
【業務精励】農業
64歳　細野

もともとはタバコなどを生産する農家だった立花さんは「きれいに咲くリンドウを育てるのを自分の仕事にしたい」と考え、旧安代町で本格的な生産が始まった昭和47年からリンドウ栽培に取り組みました。同57年から平成3年まで10年間、旧安代町農協花き生産部会長を務め、品質の向上と生産拡大に力を注ぎ、日本一の産地を誇る安代リンドウの礎を築きました。

「何も知らないところから一生懸命やってきたので、本当にうれしい」と受章の喜びを語る立花さんは「ミニハウスでリンドウの早出しを進めたい。若い生産者たちの指導にも力を入れたい」と意欲を燃やしました。